

《わくわく寺地ぱれっと》の「将棋教室」

寺地小学校の《わくわく寺地ぱれっと》では、平成29年度、年10回の「将棋教室」を実施しています。将棋連盟の紹介で、地域在住の福原指導棋士(六段)が指導しています。地域のボランティアの方々もプログラムを支えてくださり、子供たちは、将棋の指し方はもちろん、「お願いします」「負けました」「ありがとうございました」と礼儀作法も学びます。教室の冒頭、福原指導棋士が指し方の説明をしながら投げかけた質問に対して、子供たちが積極的に背伸びをして手を挙げる姿が印象的でした。



■地域人材に育まれる子供たち

「あだち放課後子ども教室」は、実行委員会、スタッフ、プログラム指導者など、多くの地域の方々に支えられています。今回、《こうどう梅☆(ぼし)ぱれっと》の開設時(平成20年度)からスタッフリーダーを務めている関さんにお話をうかがいました。関さんは現役のPTA役員のおかげから活動に携わり、お子さんが成人した現在も継続されています。

スタッフを継続していることの醍醐味は、子供たちの成長を感じることができることだそうです。

例えば、1年生から参加している子供たちが卒業していくときに、「お世話になりました」と挨拶に来てくれたり、お礼のメッセージを書き込んだ千羽鶴などの思いがけないプレゼントをされたりすると日々の苦勞が吹き

飛ぶ嬉しさとなるようです。また、卒業しても時々、放課後子供教室へ顔を出し、小学生の遊び相手になってくれるそうです。

「あだち放課後子ども教室」で、子供たちは、地域の方々の温かい見守りや多くの人との交流、様々な体験などで、地域の教育力に生まれ、心豊かで健やかに成長しているようです。



こうどう梅☆(ぼし)ぱれっと：
スタッフの皆さん
関さん(前列左から2人目)

都立特別支援学校を会場とした事例：

都立調布特別支援学校放課後子供教室《リソース・ネットじゃんけんPON!》



都立調布特別支援学校放課後子供教室は、保護者・保護者OB、地域の教育機関・団体、ボランティアで組織された任意団体「リソース・ネットじゃんけんPON!」が平成26年度から運営しています。

もともとPTAが休日に行ってきたレクリエーション活動を任意団体「リソース・ネット」※が引き継ぎ、放課後活動部門として組織され、発展させる形で取り組んできました。その間、東日本大震災を経験し、PTAと学校が、災害時等に備えて日頃から地域連携を深めることの重要性に共通認識を持ったことも、この事業を充実させ

るきっかけとなりました。

活動は、年に5回程度、土曜日に行われています。プログラムは、国際交流、表現活動、音楽鑑賞、ものづくり体験等多岐にわたります。活動の特徴は、①保護者と子供と一緒に参加できる活動(保護者も楽しみながら、子供の成長を確認できる場)、②ボランティアと子供たちとの交流を重視した活動(社会性向上の場)、③近隣教育機関及び地域と連携した活動(地域への障害児者理解普及)で、子供だけでなく、参加した誰もが心から楽しめるイベントを目指して企画・運営されています。

※リソース・ネット

都立調布特別支援学校の児童・生徒が安全で豊かな学校生活を送れるように応援することを目的として、調布特別支援学校と国立大学法人電気通信大学(以下、「電気通信大学」という。)とが教育連携協定を締結し、組織された任意団体。メンバーは、大学の教職員・学生、保護者・保護者OB、調布市立第一小学校地区協議会をはじめとする地域住民等。活動内容は、電気通信大学の公開講座として開催される「ボランティア養成講座」の企画運営、学校を拠点として行われる防災訓練、校外活動、PTA活動における介助ボランティア活動など。